

図 1-2-1-13 八郎潟および周辺域におけるシジュウカラガンの月別確認個体数(2004年9月～2013年3月) (注)確認個体数:9年間を通して算出した調査区ごとの1調査日当たりの平均個体数

(v) その他のまれに飛来するガン類

八郎潟およびその周辺域では、前述したマガン、ヒシクイ、ハクガン、シジュウカラガン、オオハクチョウ、コハクチョウ以外に、まれに少数が飛来するガン類として、サカツラガン、カリガネ、コクガンが記録されている。

サカツラガン

本種は、2006年、2007年、2008年、2009年および2011年に、小友沼もしくは八郎潟干拓地の西部や南西部で1～2羽が確認されている（図1-2-1-14）。

カリガネ

本種は、2009年2月に八郎潟干拓地の南西部で1羽が確認された（図1-2-1-15）。

コクガン

本種は、2005年12月に八郎潟干拓地の南西部で9羽が確認された（図1-2-1-15）。

(vi) ガン類

ガン類（マガン、ヒシクイ、ハクガン、シジュウカラガン、サカツラガン、コクガン、カリガネおよびガン類として記録されたものの総計）の出現傾向は、ガン類の中で最も個体数が多いマガンやヒシクイと類似している（図1-2-1-16）。

すなわち、9月～10月に小友沼や八郎潟干拓地の北部に飛来したグループは、その後11月～1月に干拓地内の広域に分布を広げ、さらに2月～3月には八郎潟調整池東部とその周辺に数1000羽～数10万羽が集中する。4月には西部承水路付近に、数羽～数10羽のみが見られる。また、5月には南西端の船越で数羽が記録されている。

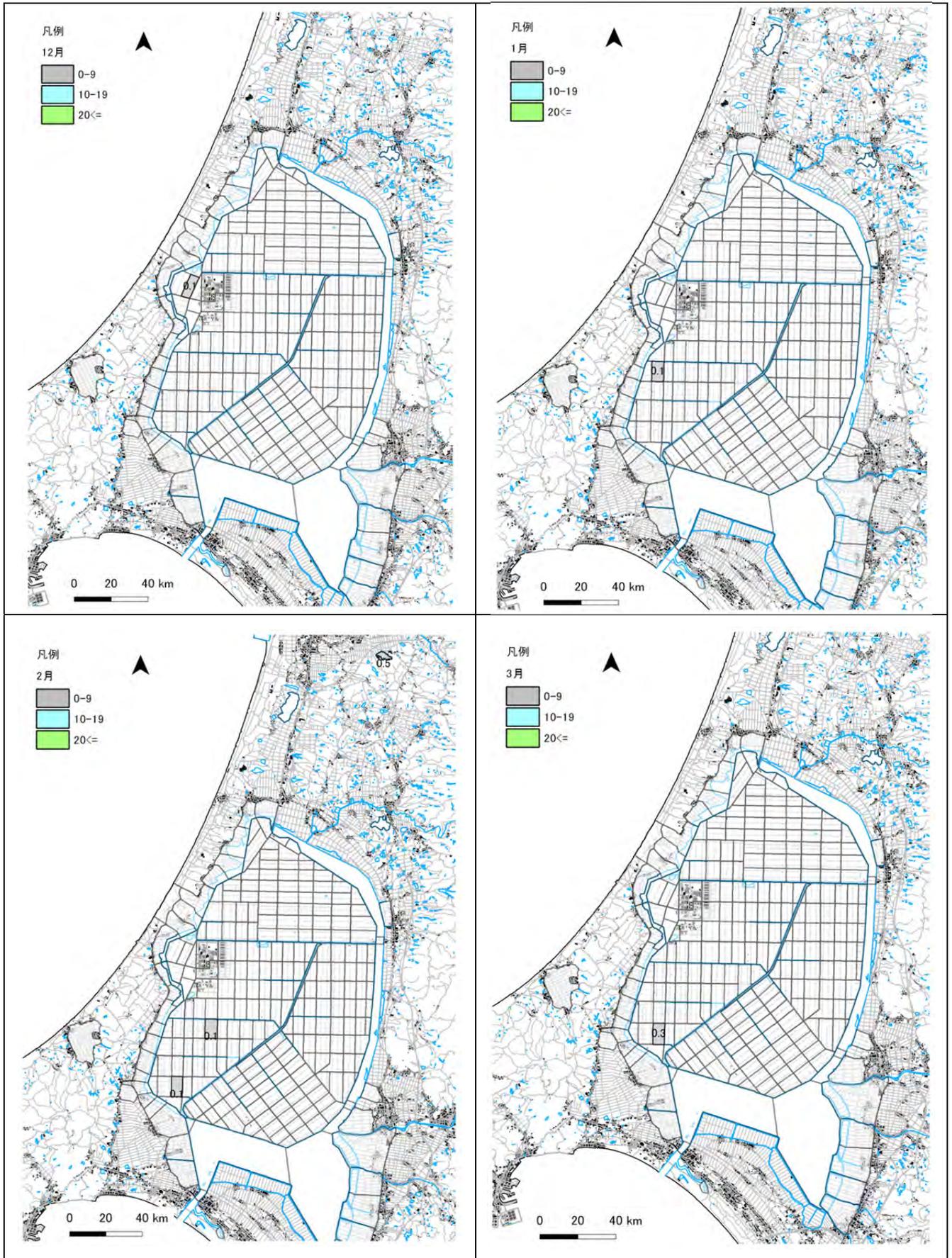


図 1-2-1-14 八郎潟および周辺域におけるサカツラガンの月別確認個体数
(2004年9月～2013年3月)

(注) 確認個体数: 9年間を通して算出した調査区ごとの1調査日当たりの平均個体数

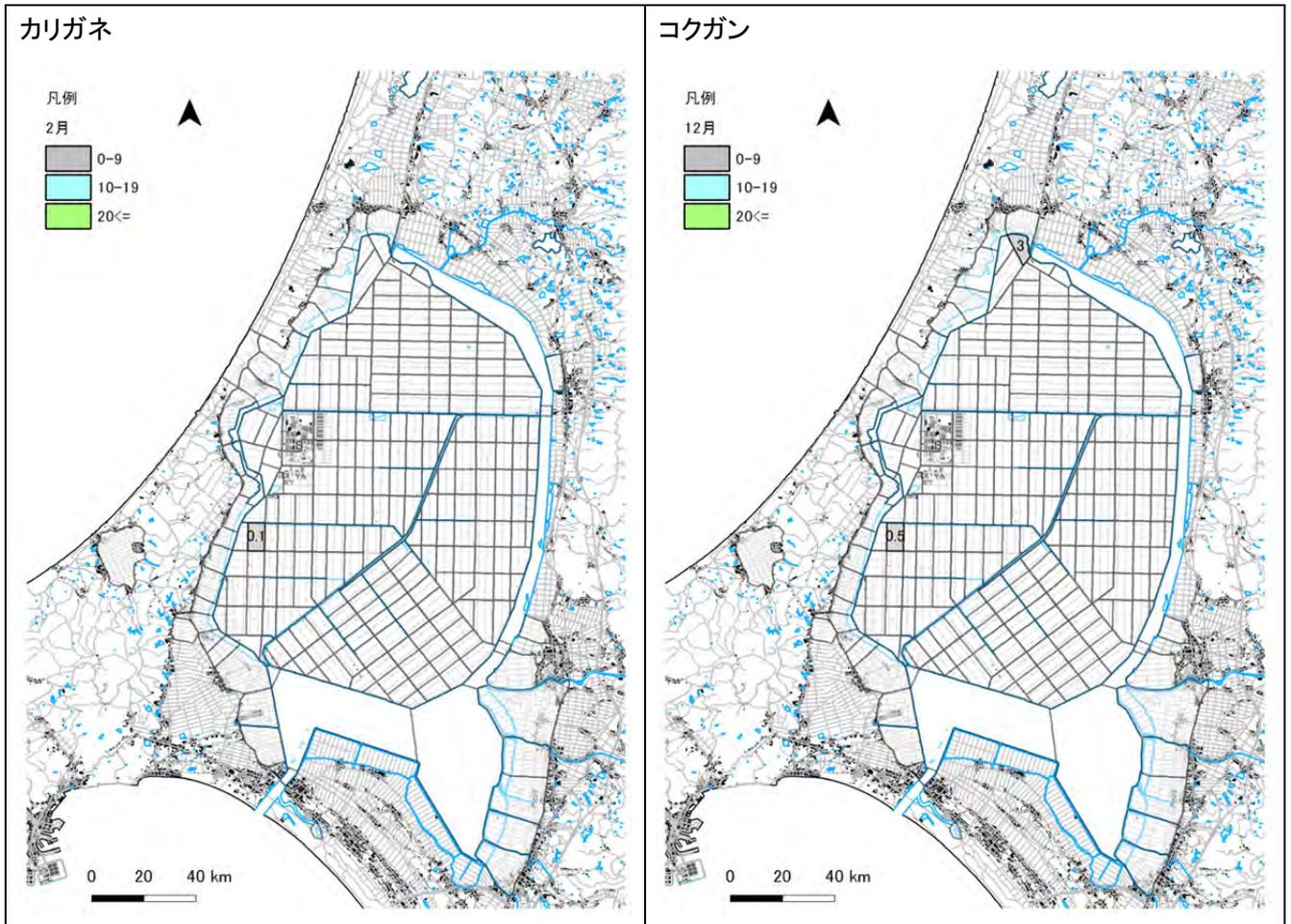


図 1-2-1-15 八郎潟および周辺域におけるカリガネ、コクガンの月別確認個体数
(2004年9月～2013年3月)

(注) 確認個体数: 9年間を通して算出した調査区ごとの1調査日当たりの平均個体数

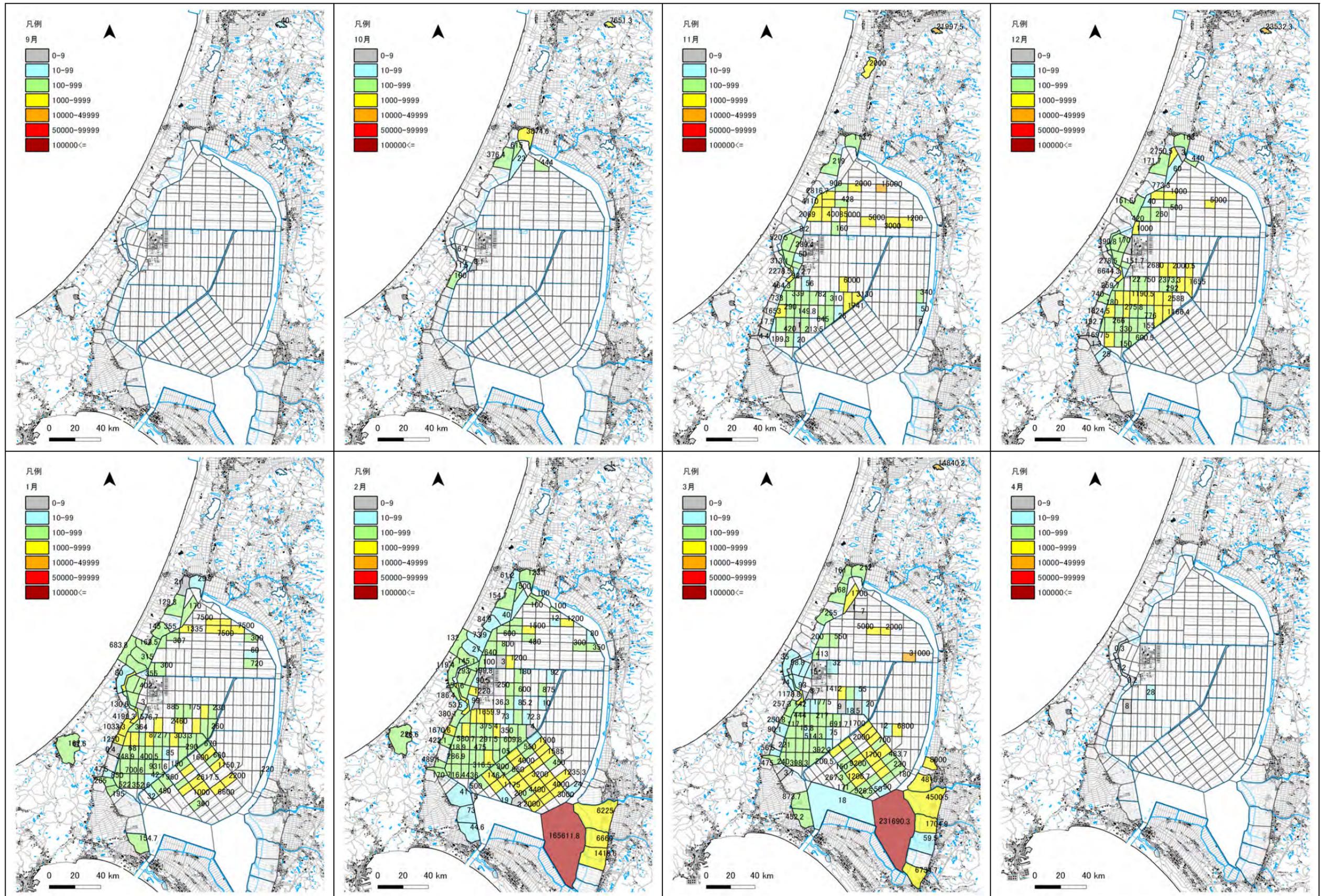


図 1-2-1-16 八郎潟および周辺域におけるガン類の月別確認個体数(2004年9月～2013年3月) (注)確認個体数:9年間を通して算出した調査区ごとの1調査日当たりの平均個体数

b)ハクチョウ類

(i)オオハクチョウ

オオハクチョウの観察結果を図 1-2-1-17～図 1-2-1-19 に示した。オオハクチョウは、毎年 10 月～4 月にかけて八郎潟およびその周辺域に飛来する。また 5 月～7 月に、傷病個体が数羽見られることがある。

- ・確認個体数を月別に比べると、1 月にピークが見られる。2011 年以前、毎年数 10 羽～500 羽程度が確認されていたが、2012 年 10 月に 1,100 羽、2013 年 1 月に近年では最も多い約 2,200 羽が記録された。
- ・本種は、秋 10 月に八郎潟調整池や西部承水路周辺に飛来する。11 月～2 月の越冬期間は、主に西部承水路とその周辺で数羽～100 羽が見られる。3 月の飛去前もほぼ同様の地域で認められる。
- ・特に本種が集中するのは、調整池の南西に位置する船越で 1 月、3 月に 100 羽以上が認められる。船越は秋 10 月に最初に飛来する箇所の一つでもある。

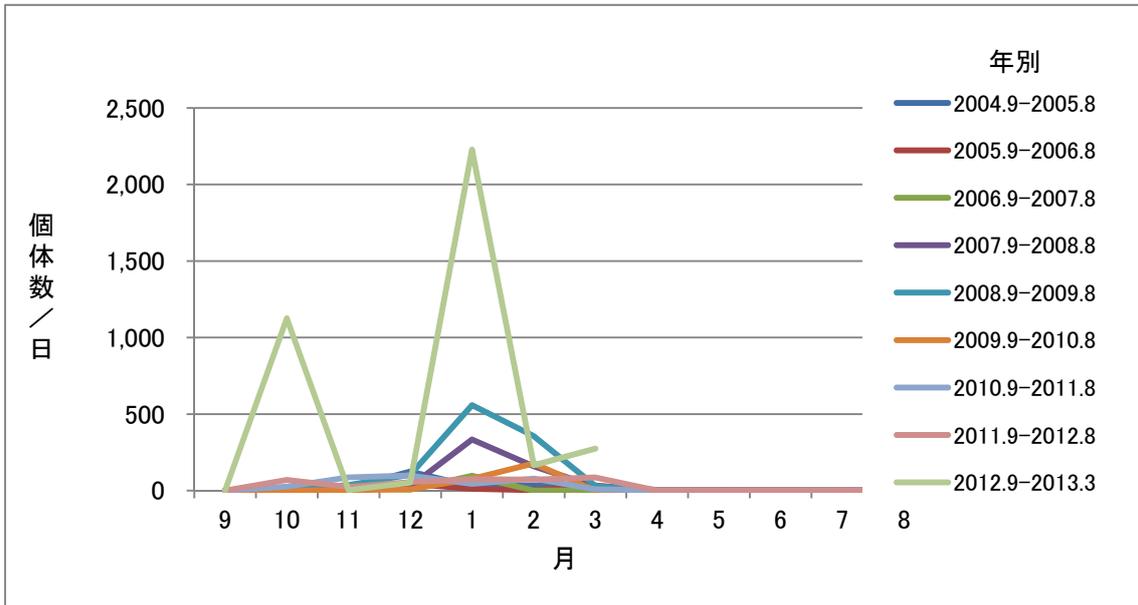


図 1-2-1-17 オハクチョウの年別月別確認個体数の変化(2004年9月～2013年3月)
 (注)月別確認個体数:調査区ごとに1調査日当たりの平均個体数を算出し、それを月別に合計した値

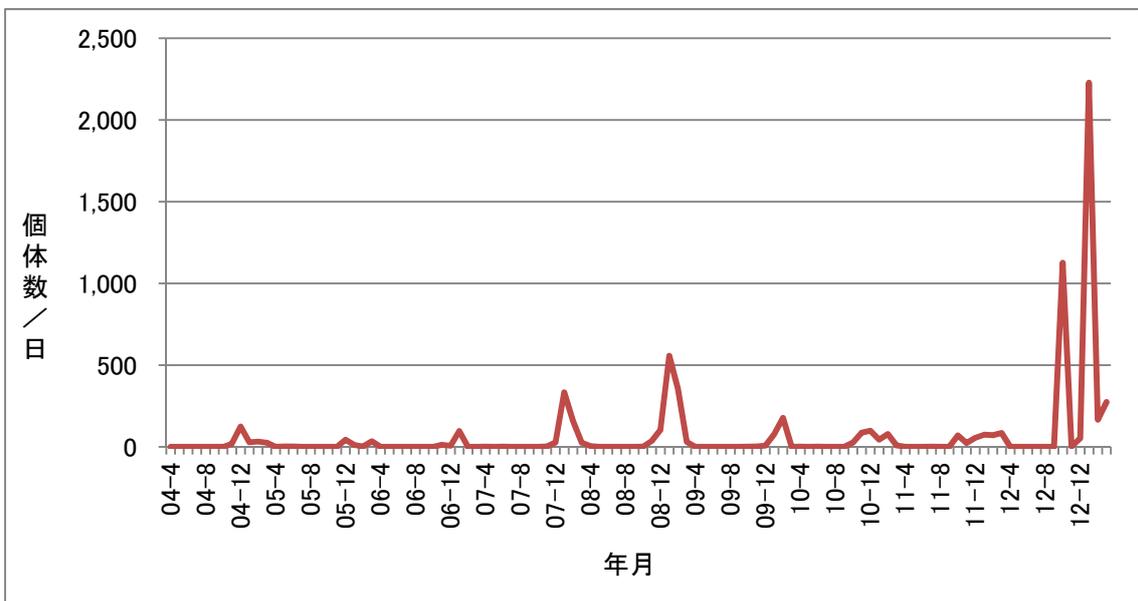


図 1-2-1-18 オオハクチョウの月別確認個体数の経年変化(2004年4月～2013年3月)
 (注)月別確認個体数:調査区ごとに1調査日当たりの平均個体数を算出し、それを月別に合計した値

(ii)コハクチョウ

コハクチョウの観察結果を図 1-2-1-20～図 1-2-1-22 に示した。コハクチョウはオオハクチョウより多く、毎年数 100～1000 羽以上が八郎潟およびその周辺域に飛来する。

- ・ 確認個体数を月別に比べると、12 月にピークが見られる。本種は 2004 年 12 月に最大 2,000 羽を記録したのちは、1000 羽程度飛来する年と数 100 羽の年が見られる。2011 年 12 月と 2012 年 12 月は 2 年続けて 1,000 羽以上が確認されている。
- ・ 本種は、秋 9 月～10 月に小友沼や八郎潟調整池や西部承水路周辺に飛来する。11 月～2 月の越冬期間は、オオハクチョウ同様、主に西部承水路とその周辺で数 10 羽～数 100 羽が見られる。3 月の飛去前もほぼ同様の地域で確認される。
- ・ 本種の利用が多い西部承水路南部（NHK 向い）とその周辺では、1 月～2 月に約 500 羽～1,000 羽が記録される。
- ・ 5 月～7 月にも数羽が記録されている。

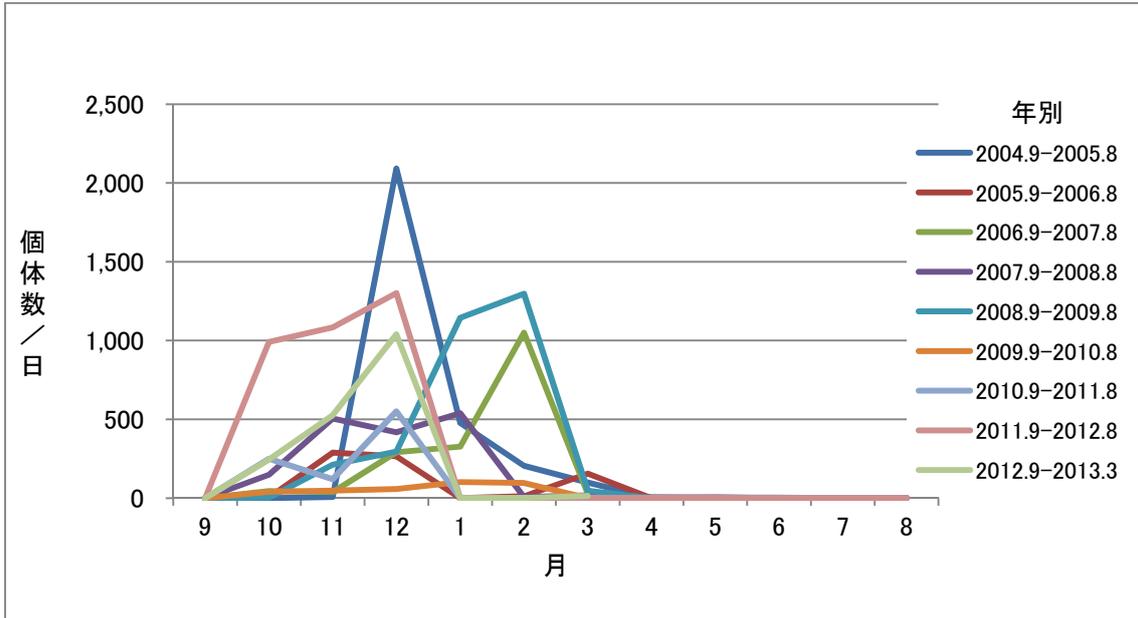


図 1-2-1-20 コハクチョウの年別月別確認個体数の変化(2004年9月～2013年3月)
 (注)月別確認個体数:調査区ごとに1調査日当たりの平均個体数を算出し、それを月別に合計した値

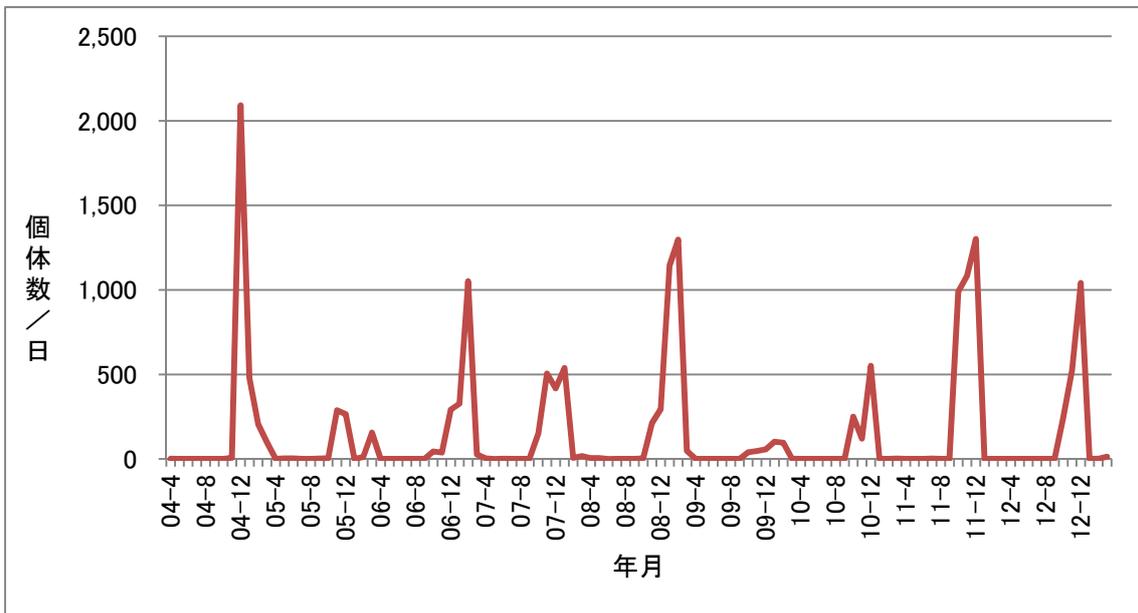


図 1-2-1-21 コハクチョウの月別確認個体数の経年変化(2004年4月～2013年3月)
 (注)月別確認個体数:調査区ごとに1調査日当たりの平均個体数を算出し、それを月別に合計した値

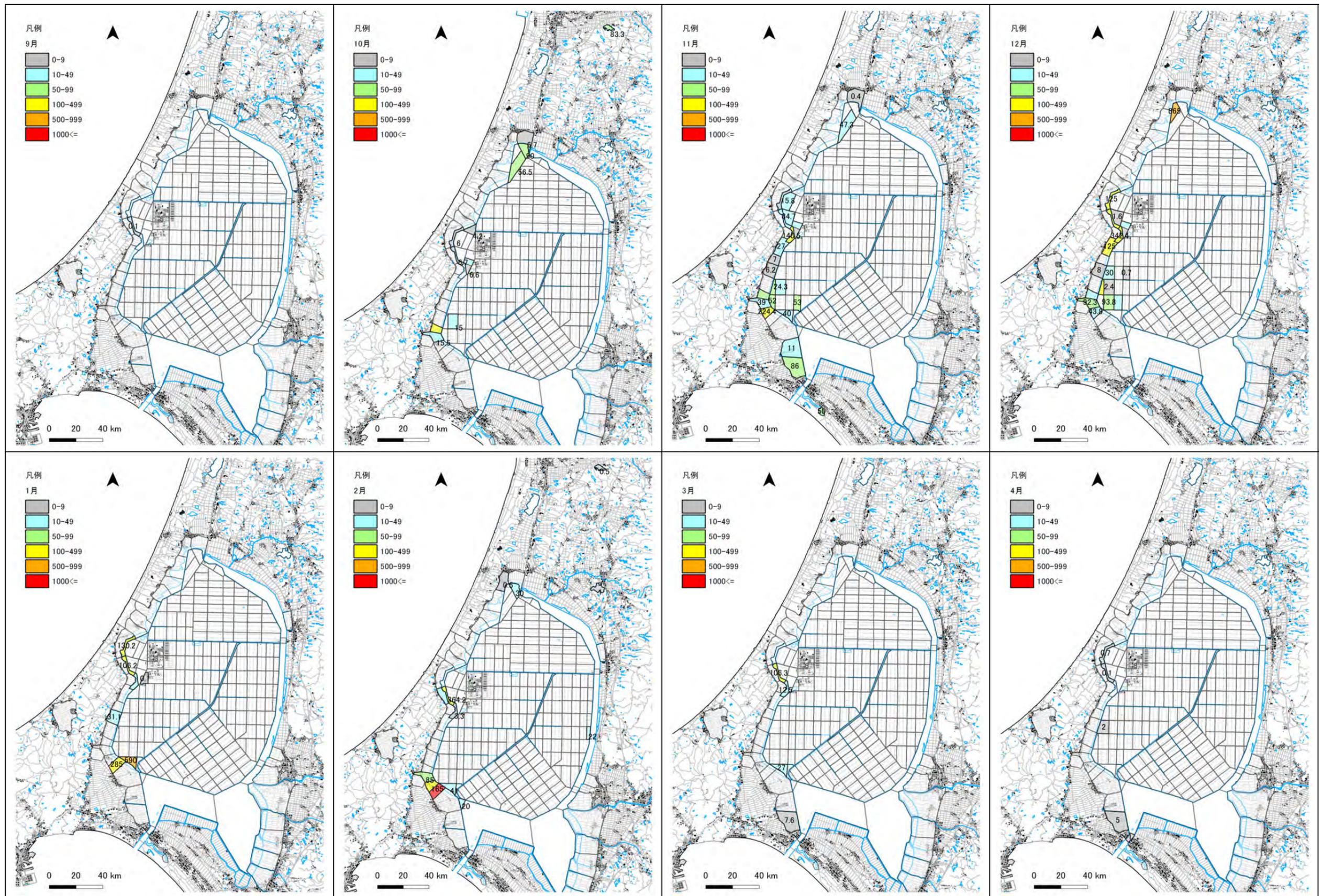


図 1-2-1-22 八郎潟および周辺域におけるコハクチョウの月別確認個体数(2004年9月～2013年3月) (注)確認個体数:9年間を通して算出した調査区ごとの1調査日当たりの平均個体数

(iii)ハクチョウ類

ハクチョウ類（オオハクチョウ、コハクチョウ、アメリカコハクチョウおよびハクチョウ類として記録されたものの総計）の出現記録は、西部承水路やその周辺に多く、オオハクチョウ、コハクチョウよりもやや広域で記録されている。

また、小友沼では10月～2月に数10羽～数100羽が記録されるが、飛去前の3月には、1,000羽以上が見られる（図1-2-1-23）。

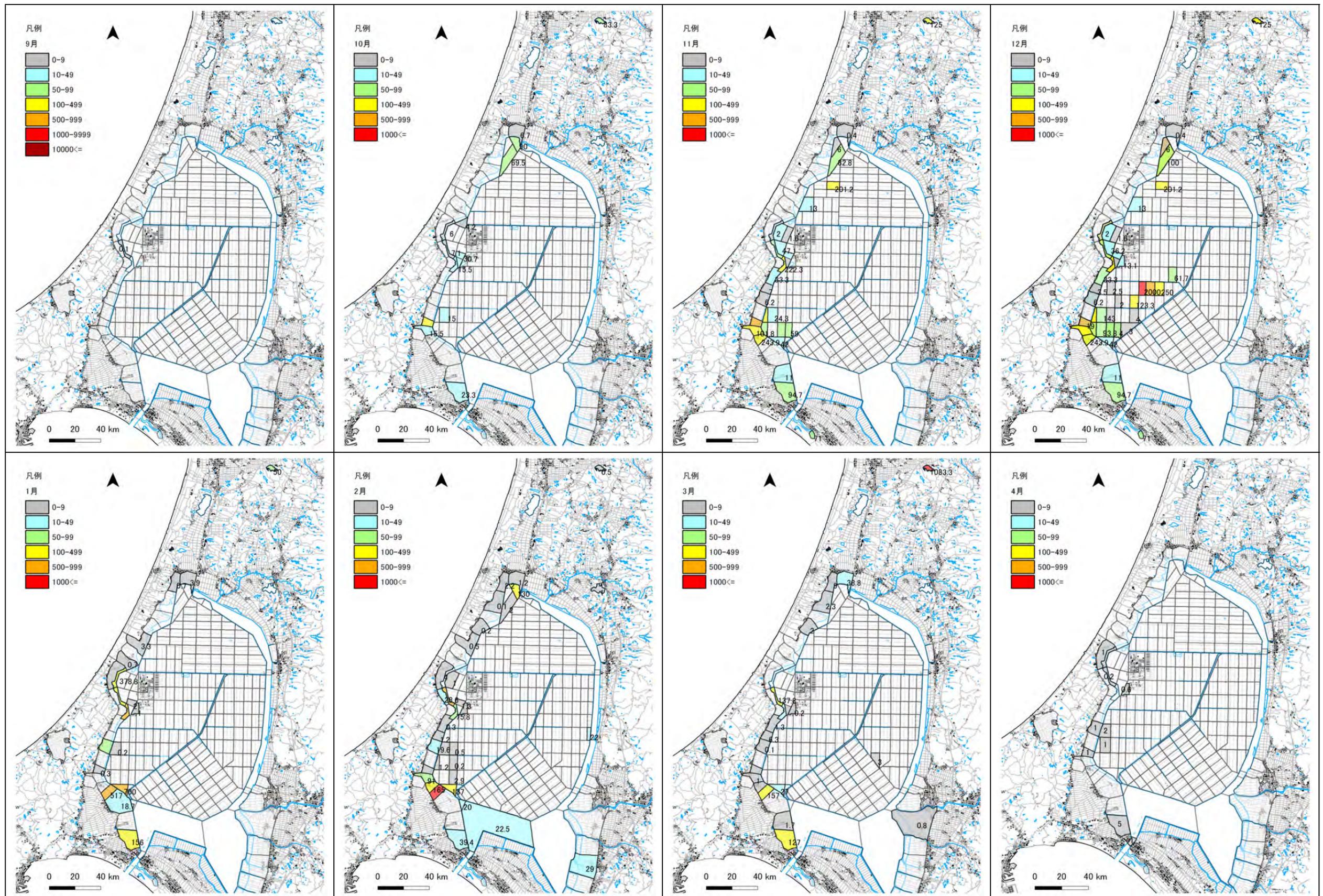


図 1-2-1-23 八郎潟および周辺域におけるハクチョウ類の月別確認個体数(2004年9月～2013年3月) (注)確認個体数:9年間を通して算出した調査区ごとの1調査日当たりの平均個体数

c)カモ類

(i)コガモ

コガモの観察結果を図 1-2-1-24～図 1-2-1-26 に示した。コガモは、カモ類の中で最も個体数が多く、2010年11月には最大18,000羽を記録した。

- ・確認個体数を月別に比べると10月～11月にピークが見られ、12月以降は少ない。また、本種は近年ゆるやかな増加傾向が見られる。
- ・本種は9月、主に西部承水路周辺に飛来し、11月にかけて特に芦崎、干拓地内 A36 地区などで1万羽以上記録される。厳冬期の1月～2月は、西部承水路南部の NHK 向いや潟端地区で数100羽～数1000羽が見られる。飛去前の3月も西部承水路周辺に多い。

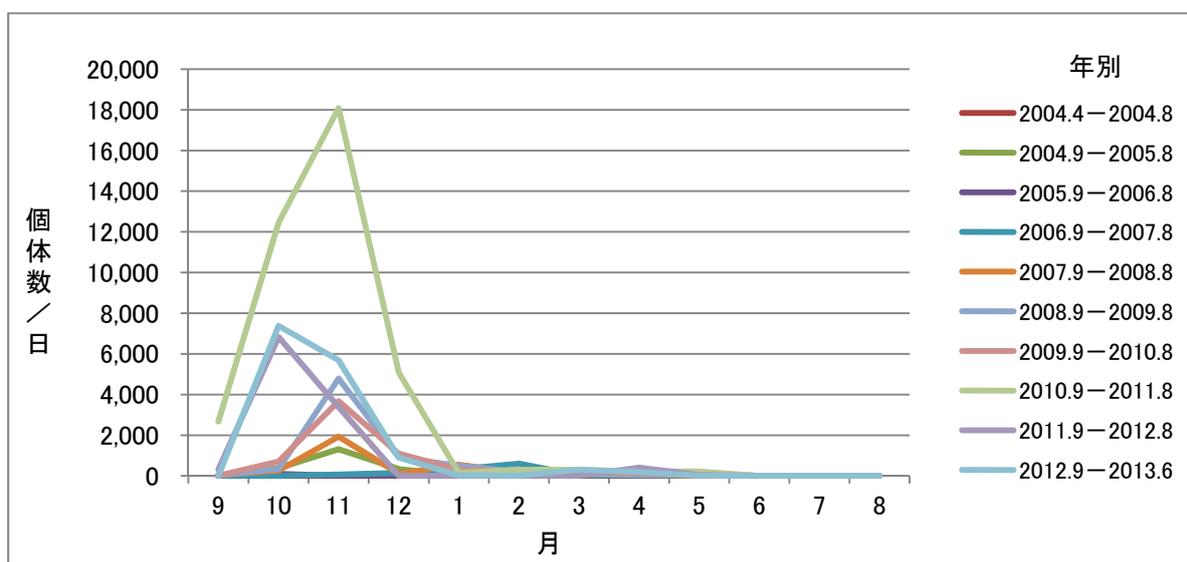


図 1-2-1-24 コガモの年別月別確認個体数の変化(2004年4月～2013年6月)

(注)月別確認個体数:調査区ごとに1調査日当たりの平均個体数を算出し、それを月別に合計した値

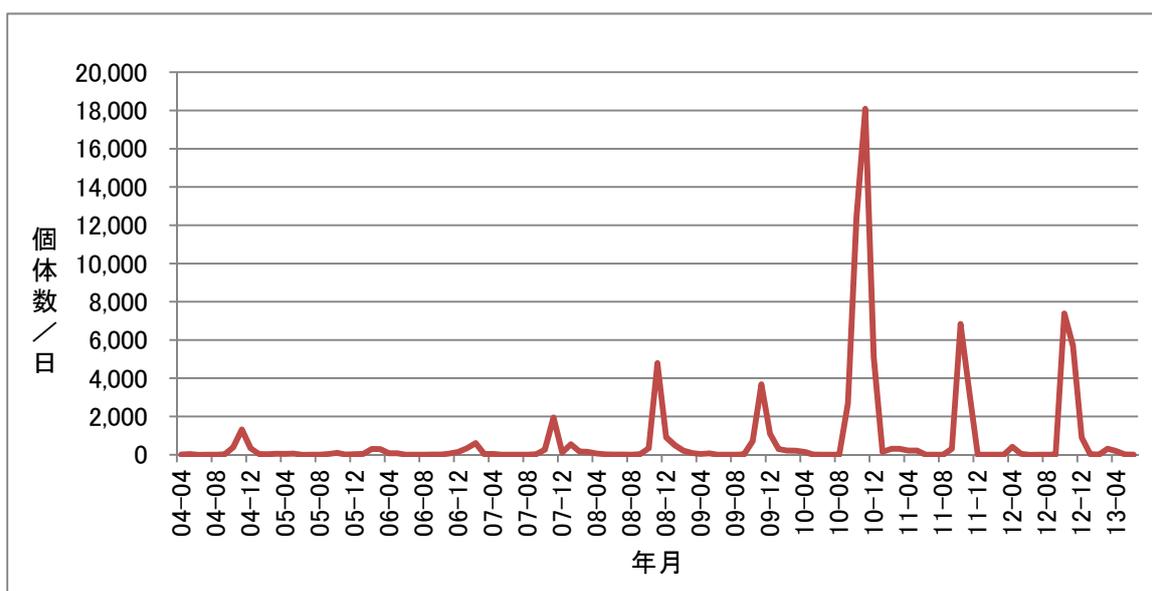


図 1-2-1-25 コガモの月別確認個体数の経年変化(2004年4月～2013年6月)

(注)月別確認個体数:調査区ごとに1調査日当たりの平均個体数を算出し、それを月別に合計した値